



まるごと角島!

Go!ぶち海体験隊



サーフィン



ごみ拾いの集合写真

三方が海に開けた山口県には「ぶちきれいな海」「ぶち楽しい海」がたくさんあります。中でも代表的な「ぶち海」は、下関市の角島(かどしま)は「ぶちきれいな海」。「ぶち楽しい海」は「ぶちきれいな海」。「ぶち楽しい海」は「ぶちきれいな海」。「ぶち楽しい海」は「ぶちきれいな海」。

6年生19人が様々な学習をしました。角島の歴史や自然環境、海の安全……。8月に「まるごと角島」ぶち海体験隊」を結成した子どもたちは、島で暮らす人や、島で活動する人から話を聞くなどして知識を深めました。ぶち海体験隊の活動の様子を特別号で紹介いたします。



ツノシマクジラ



魚も見とれるような美しさ

「隊員の思いを結集」 包装紙でできた!



隊員の思いを結集した包装紙が完成しました

角島土産の「青海苔羊羹」

下関市を流れる粟野川の、海の水と交わる汽水域で青海苔は育ちます。美しい海はふるさとの味ともつながっています。



走りだしたくなる海



角島の奇蹟

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT in やまぐち



みる。きく。つながる。KRY 65th

読売KODOMO新聞

月額 550円(税込)
毎週 木曜日 発行

週1回だから 気軽に読める

月額 850円(税込)
毎週 金曜日 発行

読売 中高生 新聞

オールカラー/タブロイド判 /20ページ

- わかりやすい ニュース
- 勉強が 好きになる
- 楽しみながら 学べる

イラストや写真を大きく使った紙面は、ニュースや社会の仕組みを楽しく、分かりやすくお伝えするレイアウトです。その他、スポーツ・ファッション等バラエティー豊かな話題が充実。学習ページは大手学習塾四谷大塚の監修でしっかりと学べます。

オールカラー/タブロイド判 /24ページ

- 時事問題を 一気に チェック
- 受験に 強くなる
- 多彩な コンテンツ

ニュース面は若者の未来にかかわる社会事象や時事ニュースをカラー図表をもとにじっくり解説。短時間でも効率的に情報を得られる工夫をしています。学習面は、中高生がともに活用できる充実した内容。英語は英会話と長文読解の2面を用意しています。その他ファッション、書評、芸能などをラインアップ。

電話でのお問い合わせ・お申し込み

0120-4343-81
またはお近くの読売センターまで

携帯電話・スマートフォン

右記 二次元コードをスマートフォンまたは携帯電話で読み取りください。

一部対応していない機種もございます。その際はお電話でお願いいたします。

エメラルドグリーン^{しろ}の海、白い砂浜^{すな}… なぜ、**ぶち海**は生まれたのか



エメラルドグリーン^{しろ}の海が広がる角島

角島^{りょう}周辺の良漁場^{ぎょ}

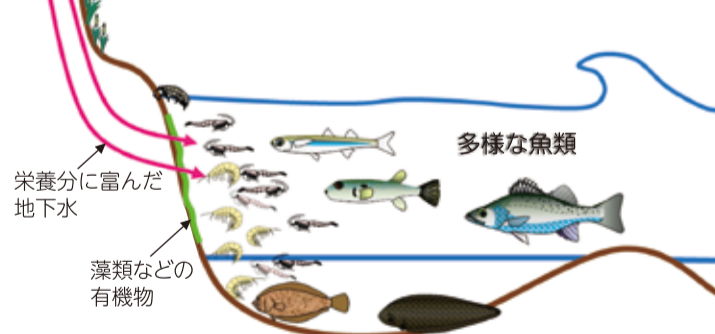
角島が浮かぶ日本海側の海は、水深1300〜1500mの陸棚が対馬(長崎県)や朝鮮半島まで続いています。鮮魚が豊富です。対馬暖流の影響でイワシやブリ、サバなど回遊する魚が多いのも特徴です。良い漁場^{りょう}になっていて、いよは、こつじた地^じ形も関係しています。



砂丘植生

砂浜の生態系イメージ

浜辺の生き物は魚たちの大切なエサになる



砂浜の掃除屋さんたち



ヒメスナホリムシ ニホンスナハマトビムシ シキシマフクロアミ



角島大橋

角島と言えば、エメラルドグリーン^{しろ}の海と白い砂浜^{すな}が有名です。これらがマッチした絶景は、どうやって生まれたのでしょうか。体験隊の山口市立大内小5年森岡顕彦君は、同館の熊井清雄さんから説明を受け、「すごく大きいけど、ワジラの仲間では小型だと聞いて驚いた。もっとワジマワジラについて調べたい」と話していました。

角島と言えは、エメラルドグリーン^{しろ}の海と白い砂浜^{すな}が有名です。これらがマッチした絶景は、どうやって生まれたのでしょうか。体験隊の山口市立大内小5年森岡顕彦君は、同館の熊井清雄さんから説明を受け、「すごく大きいけど、ワジラの仲間では小型だと聞いて驚いた。もっとワジマワジラについて調べたい」と話していました。

生きたのでしょか。体験隊の山口市立大内小5年森岡顕彦君は、同館の熊井清雄さんから説明を受け、「すごく大きいけど、ワジラの仲間では小型だと聞いて驚いた。もっとワジマワジラについて調べたい」と話していました。

海の色はどうでしょうか。角島大橋周辺の白い砂浜が広がる海岸では、「海水の透明度が高く、遠浅だと、太陽の光の加減で浅い部分がエメラルドグリー

砂は世界で2番目に多い天然資源で、コンクリートやアスファルトの材料としても使われています。須田校長は「世界中で都市化が進み、ビルや道路をつくるのに必要な砂が不足し、問題になっている」とも教えてくれました。



須田 有輔校長



南條 楠助教

さんと呼ばれています。沿岸部にすむ魚の餌にもなるそうです。

きれいな角島の砂浜には、どんな生き物がすんでいるのでしょうか。体験隊で講師を務めた水産大学の南條楠土助教によると、ダンゴムシの仲間のヒメスナホリムシ、ヨコエビの仲間のシキシマフクロアミなどが生息しています。いずれも「すごく小さな生物です。砂や水の中にある細かい有機物や、打ち上げられた海藻、動物の死骸などを食べている。これらの生き物は砂浜の掃除屋さんと呼ばれています。沿岸部にすむ魚の餌にもなるそうです。」

礼拝堂のセット



「四日間の奇蹟」で使われた礼拝堂のセット

2005年6月に公開された映画「四日間の奇蹟」は、角島でロケが行われました。た。下関市出身の佐々部清監督(故人)が手がけた作品です。映画に登場した礼拝堂のセットは今も大浜海水浴場の一角に残っており、海水浴シーズンには公衆トイレとして利用できます。

近くのつしま自然館には、作品の中で主人公らが訪れる「療養所」として登場します。



道の駅「北浦街道 豊北」

道の駅「北浦街道 豊北」は、下関市豊北町にある本州最西端の「道の駅」です。国道191号沿いにあり、遠くに角島大橋を望むことができます。

施設では、地元で水揚げされた魚介類や果物、野菜を取りそろえた物産品販売所「ほろほろ夢市場」が人気。海の幸を提供するレストラン「わくわく亭」もあり、連日、多くのお客さんでにぎわっています。

つしま自然館



ツシマンシラの全身骨格標本(レプリカ)

つしま自然館は角島の中心部にあります。島の歴史や生態系を学ぶことができる施設です。



つしま自然館で見聞を深めました

館内に入ると目を引くのが、ツシマンシラの全身骨格標本(レプリカ)です。体長は約11m。1998年9月、角島近海で漁船と衝突したワジラで、国立科学博物館や日本鯨類研究所の調査でヒゲワジラの新種と確認されました。

下関市にある角島は、日本海に浮かぶ一周約17kmの小さな島です。かつては漁業の島として栄えていました。角島大橋で本土と結ばれてからは、人気の観光地になりました。角島を含む豊北地区の2019年度の観光客は100万人を超え、10年前の約2倍に増えています。



大迫カツノシマワジラ 本州最西端の「道の駅」 絶景「角島大橋」



CMにも登場した角島大橋

角島大橋

角島大橋は2000年11月に開通しました。長さは1780m。エメラルドグリーン^{しろ}の海にかかる大橋は多くのテレビコマーシャルに登場し、角島の知名度アップに貢献しています。

橋の近くにある「ホテル西長門リゾート」の総支配人で、豊北町観光協会長の庄司隆治さんが「車のCMに採用されればよいアピールになる」と考え、町とともに誘致に乗り出したのが始まり。開通からこれまでに十数本のCMに採用され、映画のワンシーンを飾ったことでもあります。

島と本土の間は大橋の開通前、1日7往復の渡船で結ばれていました。開通から20年、角島大橋は観光振興だけでなく、島民の暮らしにも大きな影響を与えました。



巨大なフレネルレンズを間近で見ました

ぶち海を 未来につなぐために 守るぞ！ 美しい海・海の安全

きれいな角島の海にも問題があります。砂浜にはごみが流れ着き、観光客の増加でポイ捨ても増えています。体験隊の子どもたちは島の対岸で海岸清掃をしながら、角島のごみ問題を考えました。



たくさんごみを集めたぞー

ごみ問題と清掃活動

海岸清掃は、「ホテル西長門リゾート」前で行いました。浜辺に転がっていたのはペットボトルやレジ袋、発泡スチロール、流木……。子どもたちはポリ袋を手に歩き、これらを拾い集めました。
「ごみは海流に乗って流れ着いた物」と、捨てられた物に分けられます。流れ着いたごみを見ると、韓国語や中国語が記された物もありました。
水産大学の須田校長は学習の中で、プラスチックのごみが細かく砕かれてできたマイクロプラスチックが海に漂っていることに触れ、「こうしたごみは生態系に影響を与えており、世界中で問題になっている」と教えてくれました。
海岸清掃をした下松市立下松小6年の大井花凛さんは「美しい海を守るため、なるべくプラスチックを使わないようにする」

角島灯台

活動では、海の安全についても学びました。1876年(明治9年)に建てられた角島灯台は、島の西端にある御影石造りの灯台です。
高さ30m。国内に五つしかない特大のフレネルレンズ(高さ2.59m)が用いられ、18.5海里(34km)先まで光が届きます。歴史的な価値が高く、「日本の灯台50選」に選ばれています。
講話をした門司海上保安部の二宮誠交(にのみまこと)課長によると、英国人技師のリチャード・ハンリー・プラントン(リチャード・ハンリー・プラントン)の設計で、日本海側では初めての洋式灯台です。
灯台に興味を示していた美祿市立大嶺小5年の岡本蒼生君は「美しいだけでなく、歴史があることを学び、すごい灯台だ」と思ったと話していました。

講話をした門司海上保安部の二宮誠交(にのみまこと)課長によると、英国人技師のリチャード・ハンリー・プラントン(リチャード・ハンリー・プラントン)の設計で、日本海側では初めての洋式灯台です。
灯台に興味を示していた美祿市立大嶺小5年の岡本蒼生君は「美しいだけでなく、歴史があることを学び、すごい灯台だ」と思ったと話していました。



灯台記念館でも学習しました



二宮 誠課長
休み。
料荒天時は無
記念館は無
00円(中
学生以上)
観寄付金3
で。灯台は参
月午後5時ま
午後4時半(3〜9

灯台記念館

角島灯台の灯台守の宿舎だった退息所は、灯台記念館になっています。角島の歴史や日本各地にある灯台を紹介する展示があり、復元された灯台長の部屋も見学できます。
灯台と記念館の参観は午前9時〜午後4時半(3〜9

砂浜で「ハイ、ポーズ！」



波に乗れたよ



おーいー



バナナボートも楽しみました



新名 文博さん

砂浜に漂着したごみを拾い集めました



ことが大切と思つたそうです。
角島には、美しい海や砂浜を守る活動をしているグループがあります。NPO法人「コバルトブルー」や「下関ライフセービングクラブ」もその一つ。海岸清掃のほか、海藻が茂る藻場を荒らす「ムラサキウニ」の駆除にも取り組んでいます。
代表の新名文博さんは「角島が観光地となつて活性化しようというプラスの面だけでなく、問題点にも目を向けてほしい」と子どもたちに語りかけました。

全力で楽しんだよ!

マリンスポーツ

子どもたちは海岸清掃をした後、サーフィンやバナナボートなどのマリンスポーツを体験しました。サーフィンではボードに横たわったまま腕で水をかく「パドルング」や、ボードに立つ「ニイクオフ」に挑戦。多くの人が初体験でしたが、徐々にうまくなり、角島の海を楽しんでいました。

ライフジャケットの正しい装着方法を教わりました





中村 心優子さん「角島海新聞」(下関市立立井小6年)

海がごみやマイクロプラスチックで汚れていることや、珍しいユリヤガイが3種類も角島に生息していることを紹介し、貝殻由来の砂が多いことで、角島周辺の海がエメラルドグリーンに見えることなども取り上げました。カラフルな題字、見出しも素敵です。



兼崎 空くん「角島新聞」(光市立浅江小6年)

写真をふんだんに使い、一枚ずつ丁寧な説明文で紹介していることや、題字の角島大橋のイラストなどから、楽しみながら新聞を作っている様子が伝わってきます。強調したい部分を色鉛筆で目立たせていて、読みながら楽しくなる紙面に仕上がりましたね。

学んだこと 新聞にまとめたぞ!

ぶち海体験隊の子どもたちは、活動を通じて学んだことや感じたことを伝えるため、オリジナル新聞を作りました。題材には、プロジェクトの中からそれぞれ、一番印象に残ったことを選びました。漂着ごみやマイクロプラスチックが海に漂う問題、航海の安全を守る角島灯台などが様々。

大好きといったタイトルが付けられています。子どもたちは取材メモを見ながら記事を書き、写真やイラスト、グラフなどをつけてカラフルに仕上げました。編集後記には、学んだ成果や願いが書き込まれています。作品6点を紹介します。(講評は読売新聞山口総局の長野浩一記者が担当しました)



小田村 由稀さん「ぶち海新聞」(山口市立大蔵小5年)

「きれいな海にかけた問題」との見出しで、ごみ問題の深刻さを表現し、海岸清掃を体験したことを写真付きで紹介しました。「都市化による砂不足」や「海面上昇で砂浜が減少」といった問題点や、マリンスポーツの楽しい思い出が伝わる紙面です。

海の魅力や危機 知ってもらおう

動画で学んだ「新聞づくり」

印刷用資料4ページ

本庶氏ノーベル賞

オンラインで新聞づくりのポイントを解説した動画

- A 見出し
- B 第1段落
- C 本文
- D 写真、イラスト、グラフ、表

プロジェクトでは例年、読売新聞記者が講師を務める「新聞づくり教室」を実施していますが、今年はコロナ禍のため、新聞づくりのポイントを動画にしてオンライン配信しました。動画では読売新聞を参考に示して、「見出しは最も伝えたい言葉を書く」「第1段落は、伝えたいことをギュッとまとめた短い文章にする」などと説明。作品は、夏休みの自由研究として活用してもらおうように呼びかけました。



山口 宙輝くん「ぶちとええとこちや新聞」(光市立若由小6年)

目に飛び込んでくる角島大橋の写真と、「世界の海を守ろう」の見出しが印象的です。「見所いっぱい 素晴らしい角島」「STOP地球温暖化」の見出しを色づくで目立たせたほか、イラストが分かりやすく、親しみやすい紙面に仕上がっていますね。



室屋 美日さん「問題新聞」(山口市立興進小5年)

マイクロプラスチックが海の影響に注目し、海を守るためポスターを使った呼びかけや、ごみ拾いに取り組むことが大切だということを、写真やカラフルな見出しで分かりやすくまとめました。魅力的な紙面です。



原 優司くん「角島新聞」(宇部市立豊田小5年)

角島灯台の役割を教わる様子や、石造りの灯台、巨大なレンズを、写真を大きく使って紹介しました。「角島灯台は今から何年前に建てられた」「海に捨てられたプラスチックは、水中で何に変わる」など、学んだことをクイズ形式でまとめたのも独特で面白いですね。